

容量停止計画提出時の留意事項

(実需給年度の2年度前に行う容量停止計画の調整)

(対象実需給年度：2025年度)

2023年7月14日

電力広域的運営推進機関

- 本資料では、実需給2年度前に行う容量停止計画提出時の留意事項についてご説明いたします。
 - ▶ 容量停止計画提出時の留意事項
 - ▶ 容量市場システムへの容量停止計画の提出

■ 容量停止計画の出力可能容量の算定方法の考え方について

➤ 説明会資料および説明会の動画を公表しておりますので、こちらを確認願います。

【説明会資料公表ページ】（対象実受給年度：2025年度） 容量市場 実務説明会資料（容量停止計画の調整業務）

（https://www.occto.or.jp/market-board/market/youryou_setsumeikai.html）

【説明会資料】

（https://www.occto.or.jp/market-board/market/files/202306_youryou_teishikeikakusetsumei.pdf）

1. 本資料の対象業務④

容量停止計画の出力可能容量の算定方法の考え方（1/2）

■ 出力可能容量の算定は供給計画への供給力計上と整合を図っていただく必要があります。供給計画への供給力計上は「電力需給バランスに係る需要及び供給力計上ガイドライン」等もご参照ください。

■ 容量停止計画の出力可能容量を算定する際の留意点を以下にまとめます。

➤ 計画補修は、定期補修および中間補修※1とし、付帯作業等も考慮した補修日数

※1：日数が短く休日等の軽負荷時に実施可能な場合は、停止電力として見込まない

➤ 計画補修による停止電力は原則、月平均値

➤ 月を跨ぐ作業計画は、それぞれの月単位に分けて算定

➤ 調整係数が適用される電源（純揚水）の出力可能容量は調整係数を乗じて算定※2

※2：供給計画における調整係数が適用される電源の停止電力の反映方法は次頁にて説明

➤ 変動電源（単独）は調整係数に停止電力が考慮されているため、停止電力を0kWとして出力可能容量を算定

➤ 本機関が「2023年度供給計画で供給区域毎に指定する記載断面 ②月間計画の算定期間、指定時」において提示する算定期間として設定する「月間」、「前半（1日～15日）」、「後半（16日～30日）」※3の平均値として算定

※3：歴日数が31日の月は、後半の算定期間は16日～31日となる。

➤ 応札単位の電源が複数あり、計画補修時においても出力可能容量の合計値が応札単位のアセスメント対象容量※4を下回ることがなければ、容量停止計画の提出の省略が可能

※4：純揚水はアセスメント対象容量に調整係数を乗じた値と出力可能容量を比較

6 1. 本資料の対象業務④

容量停止計画の出力可能容量の算定方法の考え方（2/2）（調整係数について）

■ 調整係数が適用される電源の供給力算定方法は次のとおり停止電力を反映してください。

➤ 発電方式の区分（下表の電源種別）が純揚水の場合は、個別に停止電力を算定し、出力可能容量を算定

➤ 発電方式の区分（下表の電源種別）が純揚水以外は、調整係数に停止電力が考慮されているため、停止電力を0kWとして出力可能容量を算定

太陽光・風力・自流水水力・揚水式水力の供給力算定方法について 5

電源種別		2023年度供給計画
太陽光	全量	設備量※1×調整係数
	余剰	(設備量(発電端値)－自家消費分)×調整係数
風力		設備量※1×調整係数
自流水水力※2		設備量※1×調整係数+調整能力
貯水池式水力		調整池使用計画
		貯水池使用計画
揚水式水力※3※4	純揚水	設備量※1×調整係数※5
	混合揚水	潜在計算有り 設備量※1×調整係数※5※6 潜在計算無し 貯水池式水力に準じる

※1 設備量は基本的には送電端値（太陽光（全量）・風力は発電端値＝送電端値とみなす）
 ※2 調整係数を用いるかどうかは各社判断。調整係数を用いない場合は、調整池使用計画等により算出
 ※3 計画補修がある場合の供給力の算定方法はP7、8参照
 ※4 供給力評価にあたり、考慮すべきリスク（漏水回避のための裕度、有効水位減による発電出力減等）がある場合は、各発電事業者が考慮すべきリスクを踏まえて運転継続時間を選択する
 ※5 補修や上池の水位制約を考慮した運転継続時間にあつた値を使用。なお、純揚水と混合揚水の調整係数は同一
 ※6 自分流は池容量に加算したうえで運転継続時間を算出
 (補足1) 電源1供給力については、発電事業者にて調整係数を用いて計上する。
 (補足2) 調整係数は基本停止電力が考慮されて算出されているが、揚水の調整係数は考慮されていないため、個別に停止電力の差し引きが必要。
 (補足3) 沖縄エリアにおいても、調整係数を使用し再生エネ等の供給力を算出する。

■ 容量停止計画を提出する際に特にご確認いただきたい具体例について記載します。

▶ 出力可能容量の上限

- ✓ 容量停止計画として提出いただく**作業月の出力可能容量は**、提出している期待容量等算定諸元一覧の「提供する各月の供給力」**（アセスメント対象容量）が上限**となります。
- ✓ 出力可能容量の算定は応札容量では無く、期待容量等算定諸元一覧の「提供する各月の供給力」を用いて算定ください。

期待容量等算定諸元一覧（イメージ）

項目	事業者入力				
電源等の区分	安定電源				
発電方式の区分	LNG(GTCC)				
エリア名	東京				
設備容量	25万 kW				
各月の供給力の 最大値	4月	5月	...	2月	3月
	21万	19万	...	24万	23万
期待容量	18万 kW				
提供する各月の 供給力	4月	5月	...	2月	3月
	21万	19万	...	24万	23万
応札容量	18万 kW				

期待容量等算定諸元一覧（イメージ）

項目	事業者入力				
電源等の区分	変動電源(単独)				
発電方式の区分	風力				
エリア名	関西				
設備容量	10,000 kW				
送電可能電力	9,000 kW				
調整係数	27.5%				
各月の供給力の 最大値	4月	5月	...	2月	3月
	2,679	1,421	...	3,312	3,160
期待容量	2,475 kW				
提供する各月の 供給力	4月	5月	...	2月	3月
	2,679	1,421	...	3,312	3,160
応札容量	2,475 kW				

■ 容量停止計画を提出する際に特にご確認いただきたい具体例について記載します。

▶ 出力可能容量は平均で算定

- ✓ 本機関が供給区域毎に指定する記載断面※②月間計画の算定期間、指定時の算定期間として設定する「**月間**」、「**前半**」、「**後半**」の**平均値として算定**願います。

※https://www.occto.or.jp/kyoukei/teishutsu/sankoushiryou_2023.html

「2023 年度供給計画で供給区域毎に指定する記載断面、各月毎の供給力算定期間」を参照。

【業務マニュアルp.7～8参照】

(https://www.occto.or.jp/market-board/market/jitsujukyukanren/files/230614_teishikeikaku_manual.pdf)

■ 容量停止計画を提出する際に特にご確認いただきたい具体例について記載します。

▶ 重複計上のチェック

✓ 以下ケースの場合に重複計上とならないようご注意ください。

- 同月に複数作業がある場合

- 応札単位に複数電源がある場合

- 原則として応札単位の期待容量を各号機の設備容量で按分した容量がそれぞれの号機の出力可能容量の上限となります（他号機停止時に増出力した場合を除く）。

【説明会資料p.8～12に容量停止計画の考え方の例を記載しています】

(https://www.occto.or.jp/market-board/market/files/202306_youryou_teishikeikakusetsumei.pdf)

<間違いケース>

同月に複数作業がある場合の 出力可能容量の重複計上

4/1~4/30停止



4/1~4/30停止



■ アセスメント対象容量が1,000kWで作業1、作業2に伴って1か月間停止する場合

アセスメント対象容量 1,000kW

出力可能容量 (応札単位) 0kW

停止電力 1,000kW ※停止電力 = アセスメント対象容量 - 出力可能容量

<同月に複数作業がある場合の応札単位での出力可能容量>

$$\text{応札単位での出力可能容量} = \sum (\text{各作業の出力可能容量}) - \text{アセスメント対象容量} \times (\text{計画の数} - 1)$$

$$\text{各作業の出力可能容量} = \text{アセスメント対象容量} - \text{停止電力}$$

【容量停止計画の作成例】

× 間違いケース (重複計上)

作業	期間	出力可能容量	備考
作業1	4/1~4/30	0kW	本来出力可能容量は0kWであるところ、 -1,000kWで計上されてしまう
作業2	4/1~4/30	0kW	

○ 正しい計上方法 (下記①、②どちらの方法も可)

① 作業1、作業2をそれぞれ計画提出する場合

作業	期間	出力可能容量	備考
作業1	4/1~4/30	0kW	停止電力がアセスメント対象容量を 超えないよう計上する
作業2	4/1~4/30	1,000kW	

② 作業を集約して計画提出する場合

作業	期間	出力可能容量	考え方
作業1	4/1~4/30	0kW	2つの作業を1つに集約して提出

$$\begin{aligned} &\times \text{間違いケースでの出力可能容量 (応札単位)} \\ &= (0\text{kW} + 0\text{kW}) - 1,000\text{kW} \times (2 - 1) \\ &= -1,000\text{kW} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} &\circ \text{正しい計上方法での出力可能容量 (応札単位)} \\ &\text{①の計算式} \\ &= (0\text{kW} + 1,000\text{kW}) - 1,000\text{kW} \times (2 - 1) \\ &= 0\text{kW} \\ &\text{②の計算式} \\ &= (0\text{kW}) - 1,000\text{kW} \times (1 - 1) \\ &= 0\text{kW} \end{aligned}$$

■ 容量停止計画を提出する際に特にご確認いただきたい具体例について記載します。

➤ 変動電源（単独）の対応

- ✓ 変動電源（単独）の容量停止計画を提出する際は、**停止電力量の反映は不要**です。
「出力可能容量 = 当該月のアセスメント対象容量」としてご提出願います。

※停止電力が0kWの場合でも作業計画把握のため、容量停止計画の提出は必要です

【説明会資料p.7に関連事項記載】

(https://www.occto.or.jp/market-board/market/files/202306_youryou_teishikeikakusetsumei.pdf)

■ 容量停止計画を提出する際に特にご確認いただきたい具体例について記載します。

▶ 純揚水の対応

- ✓ 出力可能容量の算定は応札容量では無く、**期待容量等算定諸元一覧の「各月の管理容量」を用います。**各月の管理容量に、**作業および作業を考慮した運転継続時間から求めた調整係数を乗じ、出力可能量を算定**ください。

期待容量等算定諸元一覧（イメージ）

項目	事業者入力				
電源等の区分	安定電源				
発電方式の区分	揚水(純揚水)				
エリア名	関西				
設備容量	25万 kW				
各月の送電可能電力	4月	5月	...	2月	3月
	21万	19万	...	24万	23万
各月の運転継続時間(期待容量算出用)	4月	5月	...	2月	3月
	8h	3h	...	6h	7h
期待容量	18万 kW				
各月の管理容量	4月	5月	...	2月	3月
	21万	19万	...	24万	23万
各月の運転継続時間(応札容量算出用)	4月	5月	...	2月	3月
	8h	3h	...	6h	7h
応札容量	18万kW				

■ 容量停止計画を提出する際に特にご確認いただきたい具体例について記載します。

▶ 作業の開始および終了年月日は2025年度内か確認

✓ 対象年度内(2025年4月1日～2026年3月31日)の作業であることを確認願います。

- 対象年度以外の期間の容量停止計画は今回提出いただく必要はありません。
- 対象実需給年度2026年度の容量停止計画は、来年度に提出してください。
- 例えば、2025/12/1～2026/4/30までの容量停止計画は、
2025/12/1～2026/3/31までを今回提出し、2026/4/1以降は来年度の提出となります

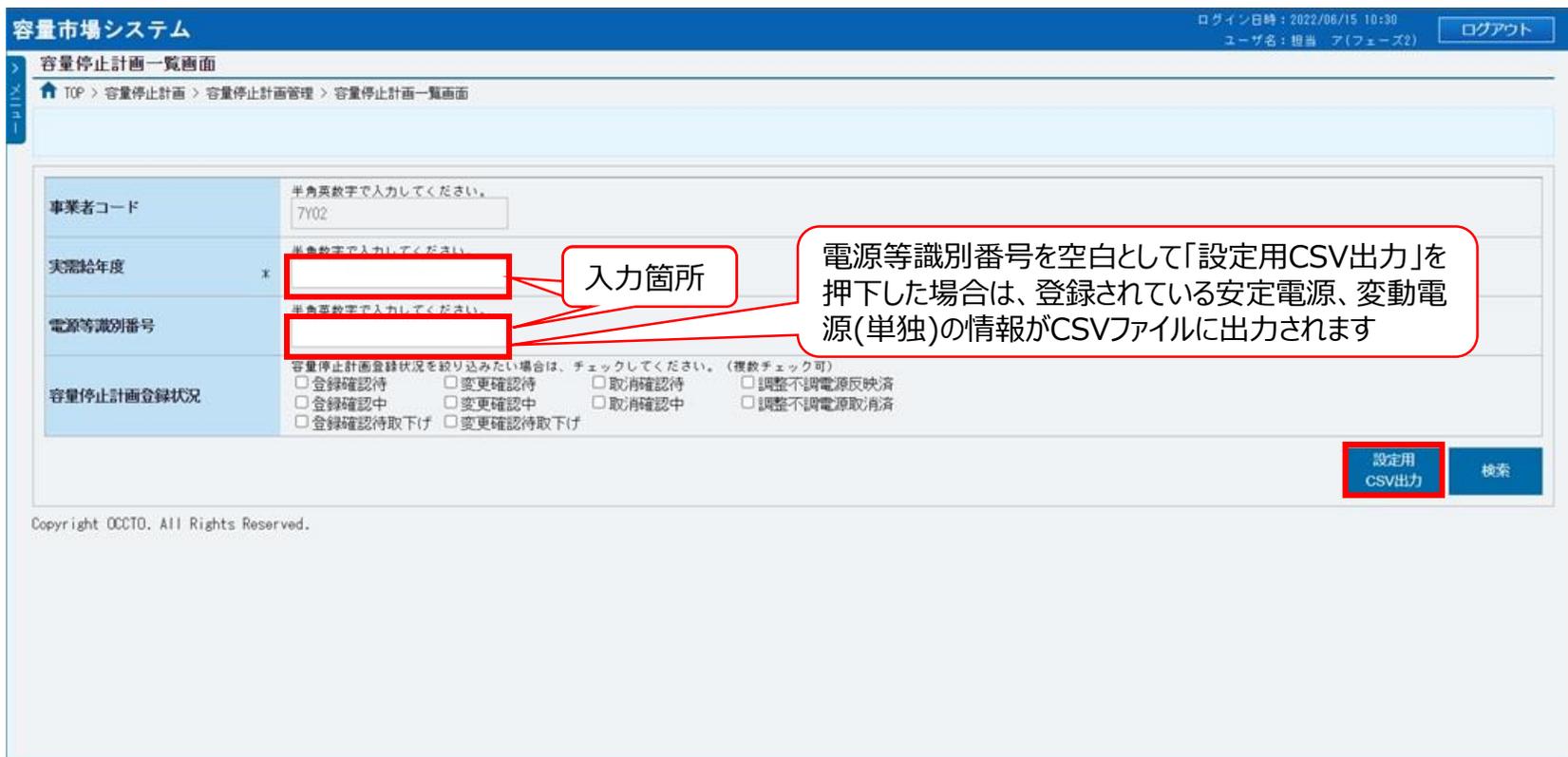
3. 容量市場システムへの容量停止計画の提出（初回）

システム操作・留意点

- 容量停止計画の提出手続きは、容量市場システムからダウンロードするCSVファイルを用います。
- 以下の手順に従い、容量停止計画の提出を行ってください。

● CSVファイルのダウンロード

容量市場システム「ポータルトップ画面」>「容量停止計画」タブで容量停止計画管理ボタンを押下>「容量停止計画一覧」で実需給年度・電源等識別番号を入力、設定用CSV出力を押下しCSVファイルをダウンロードします。



3. 容量市場システムへの容量停止計画の提出（初回） システム操作・留意点

■ CSVファイルの編集は次の点に留意してください。

● CSVファイルの編集

ダウンロードしたCSVファイルを編集します。
編集の際、桁数や0落ちなどに注意してください

ダウンロードしたCSVファイル 【容量停止計画設定CSV出力時】

容量停止計画ID	実需給年度	電源等識別番号	電源等の名称	受電地点特定番号	枝番	停止設備（号機単位の名称）	系統コード（号機単位）	作業開始年月日	作業開始時分	作業終了年月日	作業終了時分	広域受付番号	出力可能容量[kW]	容量停止計画登録状況	登録区分
2099	0000006102	Ph3_電源7Y02_安定1	33000000000000000000000000000007	1	1号機	11111	20991001	1200	20991031	2359	zzzzzzz	1	1	1	1
2099	0000006102	Ph3_電源7Y02_安定1	33000000000000000000000000000007	2	2号機	11111	20991001	1200	20991031	2359	zzzzzzz	1	1	1	1
2099	0000006102	Ph3_電源7Y02_安定1	33000000000000000000000000000007	3	3号機	11111	20991001	1200	20991031	2359	zzzzzzz	1	1	1	1

1行目のヘッダ部分（“容量停止計画ID”～“登録区分”の部分）では、ダブルクォーテーション“””を削除しないでください。
2行目以降のボディ部分（登録する情報の部分）では、ダブルクォーテーション“””を削除してください。
（ダブルクォーテーション“””を付けないでください。）

【CSV提出時（必要項目入力後）】

容量停止計画ID	実需給年度	電源等識別番号	電源等の名称	受電地点特定番号	枝番	停止設備（号機単位の名称）	系統コード（号機単位）	作業開始年月日	作業開始時分	作業終了年月日	作業終了時分	広域受付番号	出力可能容量[kW]	容量停止計画登録状況	登録区分
2099	0000006102	Ph3_電源7Y02_安定1	33000000000000000000000000000007	1	1号機	11111	20991001	1200	20991031	2359	zzzzzzz	1	1	1	1
2099	0000006102	Ph3_電源7Y02_安定1	33000000000000000000000000000007	2	2号機	11111	20991001	1200	20991031	2359	zzzzzzz	1	1	1	1
2099	0000006102	Ph3_電源7Y02_安定1	33000000000000000000000000000007	3	3号機	11111	20991001	1200	20991031	2359	zzzzzzz	1	1	1	1

容量停止計画を提出しない場合、対象行を削除

必要項目を入力

登録区分は
1を入力

CSVファイルに記載する項目一覧

No	項目	入力内容
①	容量停止計画ID	編集しない（空欄、または入力済みの値のまま）
②	実需給年度	編集しない（入力済みの値のまま）
③	電源等識別番号	編集しない（入力済みの値のまま）
④	電源等の名称	編集しない（入力済みの値のまま）
⑤	受電地点特定番号	編集しない（入力済みの値のまま）
⑥	枝番	編集しない（入力済みの値のまま）
⑦	停止設備（号機単位の名称）	編集しない（入力済みの値のまま）
⑧	系統コード（号機単位）	編集しない（入力済みの値のまま）
⑨	作業開始年月日	yyyyymmdd形式の半角数字で入力 例：2099年10月1日に作業開始の場合「20991001」と入力
⑩	作業開始時分	hhmm形式の半角数字で入力 例：9:05に作業開始の場合「0905」と入力
⑪	作業終了年月日	yyyyymmdd形式の半角数字で入力 例：2099年10月3日に作業終了の場合「20991003」と入力
⑫	作業終了時分	hhmm形式の半角数字で入力 注：24:00の場合「2359」と入力 例：9:05に作業終了の場合「0905」と入力
⑬	広域受付番号	広域機関システムから取得した広域受付番号を入力 広域受付番号がない場合「zzzzzzz」を入力
⑭	出力可能容量[kW]	1以上の数値を入力。 出力可能容量が0kWの場合は「1」を入力
⑮	容量停止計画登録状況	編集しない（空欄、または入力済みの値のまま）
⑯	登録区分	1,2のいずれかの半角数字を入力 1：初回登録 2：変更（2回目以降）

3. 容量市場システムへの容量停止計画の提出（初回）

システム操作・留意点

- 容量市場システムからダウンロードするCSVファイルを用います。
- 以下の手順に従い、容量停止計画の提出を行ってください。

● CSVファイルの保存

CSVのファイルは以下の名前で保存します。

初回提出：容量停止計画_0123_2099_0123456789_A1_R0.CSV

事業者 対象 電源等識別番号 枝番※ 変更
コード 実需給年度 回数

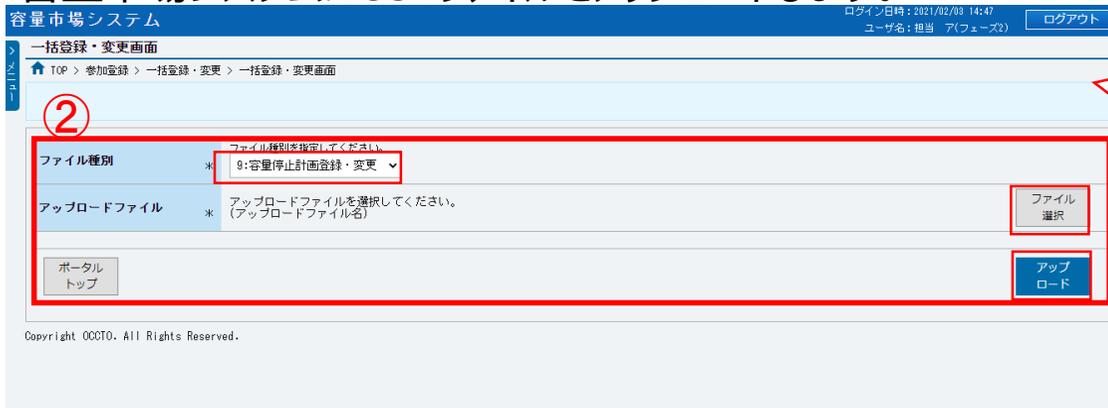
※枝番はファイルを分割する場合のみ

● CSVファイルのアップロード

容量市場システムにCSVファイルをアップロードします。

＜容量停止計画をまとめる場合の留意点＞

- ・1行に1つの容量停止計画の情報を入力し、複数の計画がある場合は2行目以降に入力
- ・複数の容量停止計画をまとめた場合、先頭行の電源等識別番号をファイル名に記載
- ・容量停止計画は号機単位で作成
- ・月を跨る作業計画は、月単位に分けて作成
- ・他事業者の容量停止計画をまとめることはできません
- ・容量停止計画を変更する場合は、変更する容量停止計画のみ提出してください。変更しない容量停止計画は当該の行を削除のうえ提出



① 容量市場システム「ポータルトップ画面」の「参加登録」タブで「一括登録・変更」を押下して、「一括登録・変更画面」へ遷移

② >「ファイル種別」で「9:容量停止計画登録・変更」を選択。ファイル選択ボタンを押下、アップロードしたい容量停止計画(年間)を選択し、アップロードボタンを押下してください。

※ 容量停止計画はユニット単位で作業毎に提出する必要があります。
※ 容量停止計画を誤って提出した場合や、アップロード処理の成否確認方法、提出単位詳細については業務マニュアルを参照してください。

3. 容量市場システムへの容量停止計画の提出（変更）

システム操作・留意点

- 作業調整が完了した後に、容量停止計画を変更します。
- 「**変更調整後の容量停止計画の提出**」は、以下の手順に従い、変更調整後の容量停止計画の提出を行ってください。

● CSVファイルの保存

CSVのファイルは以下の名前で保存します。

1回目更新時：容量停止計画_0123_2099_0123456789_A1_R1.CSV

事業者 対象 電源等識別番号 枝番※ **変更回数**
コード 実需給年度 R2
R3
⋮

※枝番はファイルを分割する場合のみ

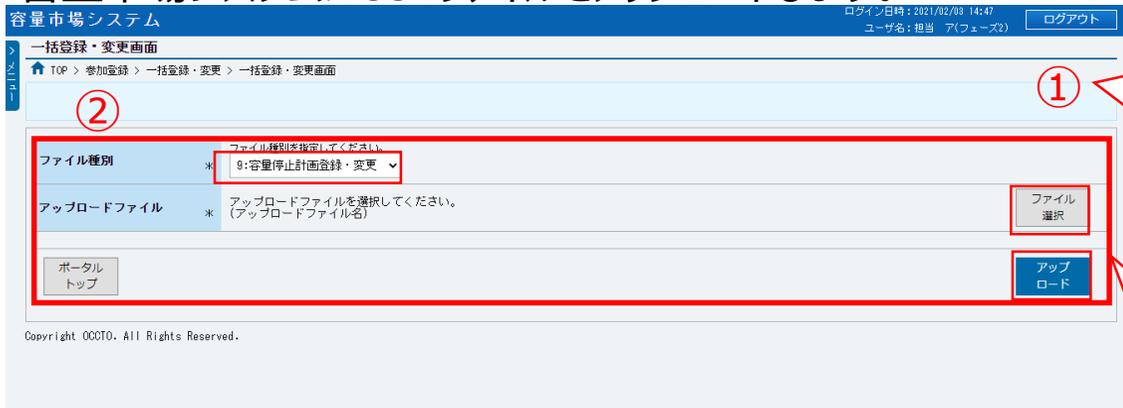
● CSVファイルのアップロード

容量市場システムにCSVファイルをアップロードします。

※ 11頁の「3.容量市場システムへの容量停止計画の提出（初回）」と基本的には同様の業務となりますが、赤字箇所は変更点となりますのでご注意ください。

＜容量停止計画をまとめる場合の留意点＞

- ・1行に1つの容量停止計画の情報を入力し、複数の計画がある場合は2行目以降に入力
- ・複数の容量停止計画をまとめた場合、先頭行の電源等識別番号をファイル名に記載
- ・容量停止計画は号機単位で作成
- ・月を跨る作業計画は、月単位に分けて作成
- ・他事業者の容量停止計画をまとめることはできません
- ・容量停止計画を変更する場合は、変更する容量停止計画のみ提出してください。変更しない容量停止計画は当該の行を削除のうえ提出



① 容量市場システム「ポータルトップ画面」の「参加登録」タブで「一括登録・変更」を押下して、「一括登録・変更画面」へ遷移

② >「ファイル種別」で「9:容量停止計画登録・変更」を選択。ファイル選択ボタンを押下、アップロードしたい容量停止計画（年間）を選択し、アップロードボタンを押下してください。

※ 容量停止計画はユニット単位で作業毎に提出する必要があります。
※ 容量停止計画を誤って提出した場合や、アップロード処理の成否確認方法、提出単位詳細については業務マニュアルを参照してください。

3. 容量市場システムへの容量停止計画の提出（参考資料）

■ 容量停止計画を容量市場システムに登録等を行う際の手続きは下表のとおり。

手続		状態	手続時の留意点
①	初回登録	容量停止計画を新規で提出	<ul style="list-style-type: none">・CSVファイルを作成し、容量市場システムにアップロードする・提出時に容量停止計画IDが入力されている場合は取込エラーとなる・容量停止計画CSVの登録区分は「1」で入力
②	変更	提出済みの容量停止計画を変更	<ul style="list-style-type: none">・CSVファイルを作成し、容量市場システムにアップロードする・システムの登録状況が「登録確認待」もしくは「調整不調電源反映済」の際に手続きが可能・容量停止計画CSVの登録区分は「2」で入力・変更の場合、登録済みの容量停止計画の取消は不要
③	取消	提出済みの容量停止計画を取消	<ul style="list-style-type: none">・容量市場システムにおいて操作・提出済みの容量停止計画が削除される・システムの登録状況が「調整不調電源反映済」の際に手続きが可能
④	取下げ	容量停止計画の初回登録、変更、取消の手続中の容量停止計画を取下げ	<ul style="list-style-type: none">・容量市場システムにおいて操作・手続き前の状態に戻るだけで、提出済みの容量停止計画はなくなる・システムの登録状況が「登録確認中」、「変更確認中」、「取消確認中」の際に手続きが可能

3. 容量市場システムへの容量停止計画の提出（参考資料）

■ 容量停止計画を容量市場システムに登録した際に表示されるステータスとシステム内の状態は下表のとおり。

ステータス		状態	可能な操作とステータス遷移先
①	なし	容量停止計画が提出されていない状態	容量停止計画の登録(②)
②	登録確認待	登録の容量停止計画が提出された状態	容量停止計画の変更(④)・取下げ(⑩)
③	登録確認中	本機関において内容の確認中の状態	事業者側の操作不可 本機関確認後(⑧)
④	変更確認待	変更の容量停止計画が提出された状態	容量停止計画の変更(⑤)・取下げ(⑪)
⑤	変更確認中	本機関において内容の確認中の状態	事業者側の操作不可 本機関確認後(⑧)
⑥	取消確認待	取消の容量停止計画が提出された状態	容量停止計画の取下げ(⑧)
⑦	取消確認中	本機関において内容の確認中の状態	事業者側の操作不可 本機関確認後(⑨)
⑧	調整不調電源反映済	容量停止計画(登録・変更)が反映された状態	容量停止計画の変更(④)・取消(⑥)
⑨	調整不調電源取消済	容量停止計画(取消)が反映された状態	—
⑩	登録確認待取下げ	容量停止計画を取下げした状態	—
⑪	変更確認待取下げ	容量停止計画を取下げした状態	—